

だから  
歯科衛生士はやめられない!②

大切な想い

浜端町子 (歯科衛生士)



● 歯科衛生士との縁

早いもので、歯科衛生士になって17年が経ちました。今日は、私が「歯科衛生士」という職業を選んだ経緯と、日々仕事をしてきて大切にしている想いを紹介したいと思います。

私が、歯科衛生士になろうと思ったきっかけは、中学3年生のときに通っていた塾の先生でした。当時、先生には大切におつきあいしている方がいらっしゃるということは知っていました。そして、高校2年生になり、自分の進路について真剣に考えはじめたとき、偶然にもその先生と再会し、当時おつきあっていた方と、その後結婚されたことを知りました。その方は開業している歯科医師で、開業したものの歯科衛生士の求人にとっても苦労し、なかなかよい縁がないことなど、いろいろとお話をうかがいました。私も、その当時は歯科衛生士という職業があることなど知らなかったように、「まだまだ、世間に認知されていないため、歯科衛生士になりたいと思う人が少ない」など、歯科

の業界について知るきっかけとなりました。そのころ、自分の進路についていろいろ考え、「医療にかかわる職業で人のために役立つ仕事がいいな」と思っていたときだったため、自然と「歯科衛生士」という職業に興味をもち、早速、歯科医院でアルバイトをしてみることにしました。ほんの数カ月間でしたが、そこでの経験は私の将来を大きく決めたのでした。あのとき、塾の先生に再会していなければ、私は歯科衛生士という職業を知ることなく、違った職業についていたでしょう。いま思うと歯科衛生士との縁があったのかもしれない。

● 日々の成長のなかで感じたこと

歯科衛生士養成校での2年間、一生懸命勉強しました。実習はとても楽しかった思い出があります。就職活動では、7、8軒の歯科医院を見学し、院長先生のお話を伺いました。いまの医院に就職を決めたのは、院長が医院の方向性やビジョンを真剣に話してくれたことや、「これから齲蝕と歯周病の予防を取り入れたい。そのためには歯科衛生士がどうしても必要だ」という考えに共感し、“この院長の右腕になりたい”と思ったからです。

しかし、いざ働きだしてみると、新卒で何もできない私。先輩歯科衛生士もいなかったの



● 浜端町子 / はまばたまちこ  
1993年 埼玉県立衛生短期大学 (現 埼玉県立大学) 卒業  
同年 丸山歯科医院勤務。現在に至る  
〒366-0029 埼玉県深谷市上敷免 365 丸山歯科医院



2010年11月炉開きにて。お茶室の雰囲気は大好きです。お点前中は心が落ち着き癒されます

進めるためにはどうしたらよいか、つねに一步先を考えながら仕事をしていて覚えています。院長は手先がとても器用で、きれいな仕事をする職人気質の強い方です。いままでずっと勤めてこられたのも、院長の仕事が好きで尊敬できたからだと思っています。

● 「一期一会」の精神で!

知識も技術も乏しく自信もなかった私でしたが、患者さんとかかわりながら大切にできたことがあります。それは「一期一会」の精神です。一期一会とは、茶道の心得の1つで、「お客様との出会いは一生に一度しかないものとして、心を込めて悔いのないようおもてなしをする。出会いを通じてそのときを大切にすること」が教えです。おのずと目の前にいる患者さんを大事にするようになりました。

高校時代に始めた茶道は、いまでも続いています。茶の湯は日本の文化であり、とても奥が深いものです。茶道を通して立ち居振る舞いや礼儀作法、おもてなしの心と思いやりの心、そしてもの大切さや気遣いなど多くのことを学びました。お点前中は、とてもゆったりとした気分になります。慌ただしい毎日のなかで疲れた心を落ち着かせることができるのは精神的な



信頼する院長・丸山吉弘先生(前列左)、これからの丸山歯科医院を担う二人(後列)と

効果も大きいようです。疲れた心も癒されま

● 素晴らしい出会いに感謝!

振り返ってみると、私は仕事を通じて、歯科医療界内外を問わず多くの素晴らしい方々と出会い、刺激を受けながら成長させていただいたように思います。現在も、同僚に恵まれ、スタディグループの仲間

に恵まれ、とてもよい環境で学び、仕事をさせてもらっていることに感謝しています。私が17年間勤めてきた丸山歯科医院は、昭和21年に開業し、現院長は二代目です。地域の人の健康を守り育てることを基本方針とし、治療と予防を両立させた医院運営を目指してきました。院長の長女は昨年歯科医師になり、ほかの二人の子どもたちも、歯学部